

ナミビア大学農学部強化 支援計画の現地から

JICA長期専門家（協力企画） 加藤由美子

1995年の設立から間もないナミビア大学農学部で、ナミビア人教官の育成を支援するため、2ヵ年の予定で国際協力事業団（JICA）長期専門家として、2002年2月に赴任しました。作物生理学、養鶏、統合環境学の3分野においてナミビア人教官を対象とした技術協力が予定されており、その調整およびナミビア農業の情報収集等の業務を行っています。

本計画は始まったばかりであり、ナミビア大学農学部もJICAとの技術協力は初めてとあって、手探り状態ですが、すでに作物生理学の短期専門家が来訪し、カウンターパートへの技術移転の一部を行いました。いろいろな分野で人材が不足しており、JICAの協力による「人づくり」が大きく期待されています。ICCAEの協力を得て、微力ながら本計画の発展に寄与すべく駆けずり回る毎日です。



ICCAEで途上国の大学事務職員に 対する研修を実施

ICCAEでは、途上国の大学から要望の多い、大学事務職員を対象とした実務処理の改善を目的とする事務研修を、名古屋大学本部（国際交流課等）および大学院生命農学研究科事務部（教務学生掛等）の協力を得て、本年2～3月に2回実施した。この取り組みは、大学運営の改善を図る上で教育支援職員が果たす役割を重視したもので、従来あまり省みられなかった面からの途上国への“人づくり支援”形態として、ユニークなものと考えられる。2名の参加者はいずれも、所属大学の事務処理改善方策を検討する上で、名古屋大学での実務処理体制の視察は大変参考になった、と述べている。

- (1) 2002年2月3日～26日 Ms. Seng MOM カンボジア王立農業大学 国際協力計画部長、カンボジア
- (2) 2002年3月17日～29日 Mr. Z.J.N. KAZAPUA ナミビア大学 学部長、ナミビア

名古屋大学国際フォーラム2002 ～新世紀を築く大学の英知～

日時／2002年6月23日（日）9：30～17：00

会場／名古屋大学豊田講堂

サテライトフォーラムの開催予告

主催／名古屋大学大学院生命農学研究科
名古屋大学農学国際教育協力研究センター
名古屋大学生物分子応答研究センター

日時／2002年6月20日（木）～21日（金）
会場／名古屋大学大学院生命農学研究科

テーマ Sustainable Agricultural System in Asia

6月20日（木）……午前：Session 1：Sustainable Bioproduction System

午後：Session 2：Biotechnology for Sustainable Bioproduction

夕方：レセプション

6月21日（金）……9：00～16：10：Session 3：International Collaboration for Sustainable Bioproduction

■第3セッション・プログラム「持続的生物生産のための国際協力」：（以下、いずれも仮訳）

- 1) 名古屋大学生命農学研究科における国際共同研究を通じた研究教育発展の展望
塚越規弘（名古屋大学生命農学研究科教授，前同大留学生センター長）
- 2) カセサート大学における研究教育および国際協力の課題と帰国留学生の役割
Dr. Supat Attathom（カセサート大学農学部植物病理学科長，タイ）
- 3) 東南アジアの農業分野における人づくりに果たすSEARCAの役割
Dr. Ruben L. Villareal（SEARCA所長，フィリピン）
- 4) 農業開発と人材育成のための南々協力を含む国際協力に関わるAICAD（アフリカ人づくり拠点）プロジェクトの経験と展望
Mr. T.J. Msogoya（ソコイネ農業大学講師，タンザニア，ICCAE客員教授）
- 5) 国際農林水産業研究センター（JIRCAS）における人材育成と大学との連携
杉野智英（国際農林水産業研究センター主任研究官）
- 6) 国際協力を形成・強化するためのODAプロジェクトの評価
三好皓一（国際協力事業団国際協力専門員，ICCAE客員教授）
- 7) 持続的農業のための人材育成に果たす名古屋大学ICCAEの役割
松本哲男（名古屋大学ICCAE教授）